

# 第1列島線防衛の抑止力： 海洋状況把握

2021. 5. 25

元海上幕僚長（元海将）  
三波工業株式会社特別顧問

武居 智久

地理は国家の外交政策の最も基本的な要素である。  
なぜなら、地理は最も恒久的なものだからである。

ニコラス・J・スパイクマン “America’s Strategy in world politics” The Geography of Peace”, 1942.

地理はオレンジ計画の大戦略であった。（日米戦争の）戦域はハワイから太平洋を5000マイル横切りアジア沿岸まで広がるだろう。この地域は水が多く陸地はほとんどない。米国は…海洋における戦争によって勝つだろう。

エドワード・S・ミラー, “War Plan Orange, The U.S. Strategy to Defeat Japan 1897-1945)”, 1991.

# 結論

- 中国共産党にとって台湾統一は政治的正統性に直結する問題である。
- 台湾統一をめぐる、両棲類パワー中国と海洋国家が対立し、太平洋戦争の歴史が繰り返される可能性がある。
- 海洋国家が戦争を抑止するためには西太平洋における情報優越を獲得しなければならない。

(注) 両棲類パワー (Amphibian power) とは、伝統的なランドパワーとシーパワーの両方の特徴を有するリムランド国家(中国やインドなど)を意味する新しいタイプの地理戦略的パワーである。

# 海洋国と両棲類国の衝突



中国は極東で支配力を持つことになる...西側諸国がこの地域で何らかの影響力を維持しようとするなら... (彼らは) 中国のパワーとなる資源を制限するために...(大陸に面した) 島々に基地を設置しなければならない。

Nicholas J. Spykman "The Geography of Peace", 1944.

# 外洋海軍が「両棲類パワー」中国を作る

強力なA2/AD能力

ランドパワー+シーパワー

両棲類パワー中国



海洋国家と両棲類国家の衝突？

# 中国国家戦略の3つの目的

## 1. 中国共産党の一党独裁体制の維持

## 2. ユーラシア東部の大陸と海洋の覇権国として中国を正当な位置に戻す

✓主たる障害は米国と民主的同盟国のシステム

## 3. 米国に匹敵し、最終的には米国よりも優れたパワー、プレゼンス、影響力を持つ真のグローバルプレイヤーになる

✓既存の国際的なルール、規範、制度を弱体化させ、それに代わって自国の利益に奉仕し、統治イデオロギーを反映・強化する新しいルール、規範、制度を創出

**Aaron L. Friedberg**, Princeton University, “Testimony before the House Armed Services Committee, Hearing on Strategic Competition with China”, February 15, 2018

# 中国共産党一党独裁の正統性の基盤

## 1. 歴史解釈

- ✓中国共産党が国民等とともに日本軍に抵抗し、抗日戦争を勝利に導いたという歴史解釈
- ✓台湾統一は残された最大の歴史問題であり、中国共産党の政治的正統性に直結

## 2. 中国共産党指導による著しい経済成長の維持

- ✓経済発展は不可避免的にさらなる政治的な開放、政治改革、民主化という副産物を生む



中国共産との政治的正統性を維持するために  
歴史解釈(台湾統一)の重要性が増大

# 「中国は再統一されなければならない、されるだろう」(2019年国防白書)

2021年 中国共産党創設百年

(小康社会の完成)

2027年 人民解放軍創設百年

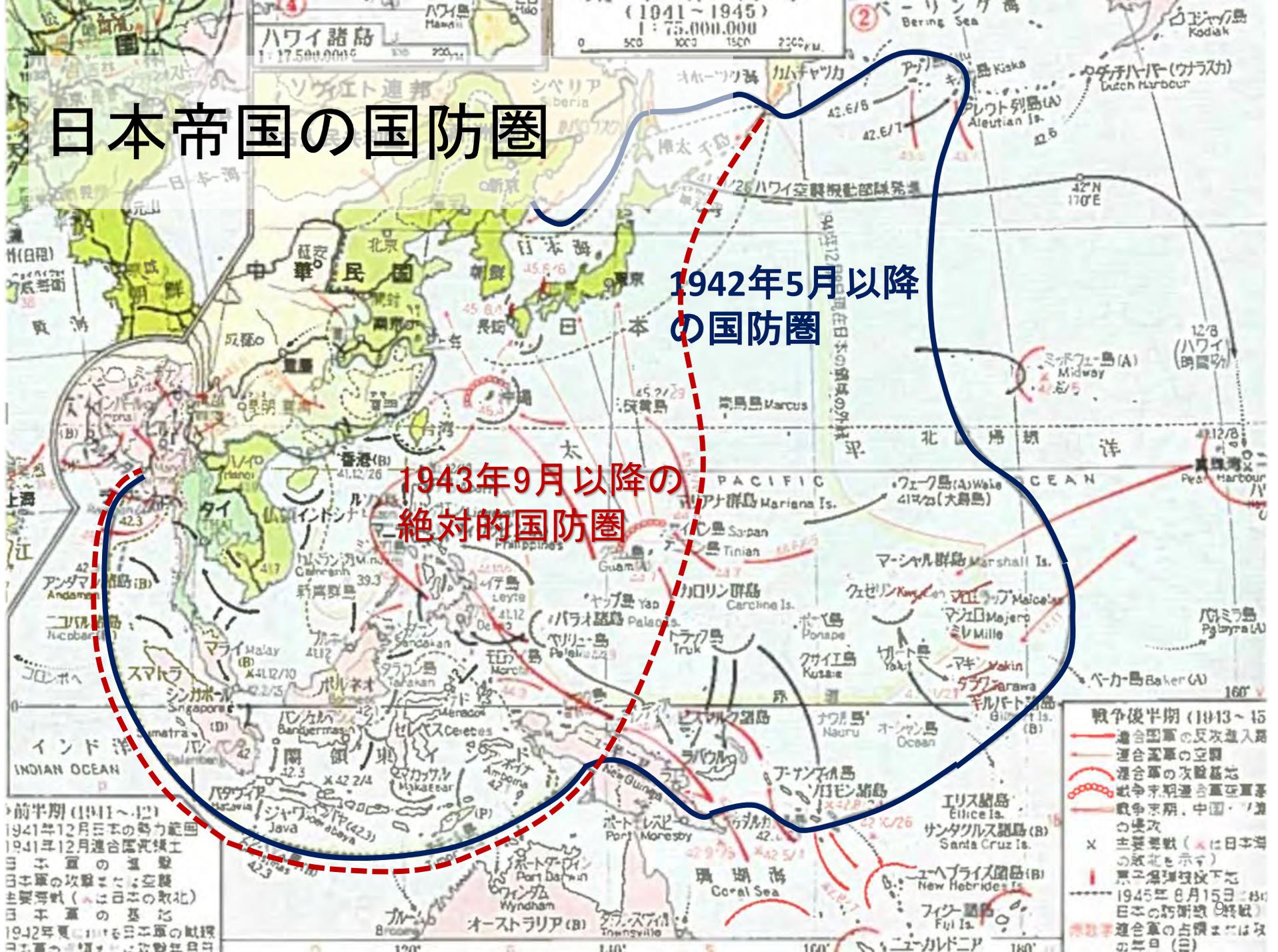
2035年 軍の近代化達成

2049年 中国建国百年

(近代的社会主义強実現)

台湾の問題を解決するために...中国は「平和統一」の原則を堅持している...一方、中国は、この目的のために国を分裂させるいかなる試みや行動、そしていかなる外国の干渉にも断固として反対する...**中国は、統一されなければならない、またされるであろう...我々は、武力の使用を放棄するとは約束せず、すべての必要な措置をとるオプションを留保する。**...人民解放軍は台湾を中国から分離しようとする者を断固として打ち負かし、いかなる犠牲を払っても国家の統一を守ろうとする。

# 日本帝国の国防圏



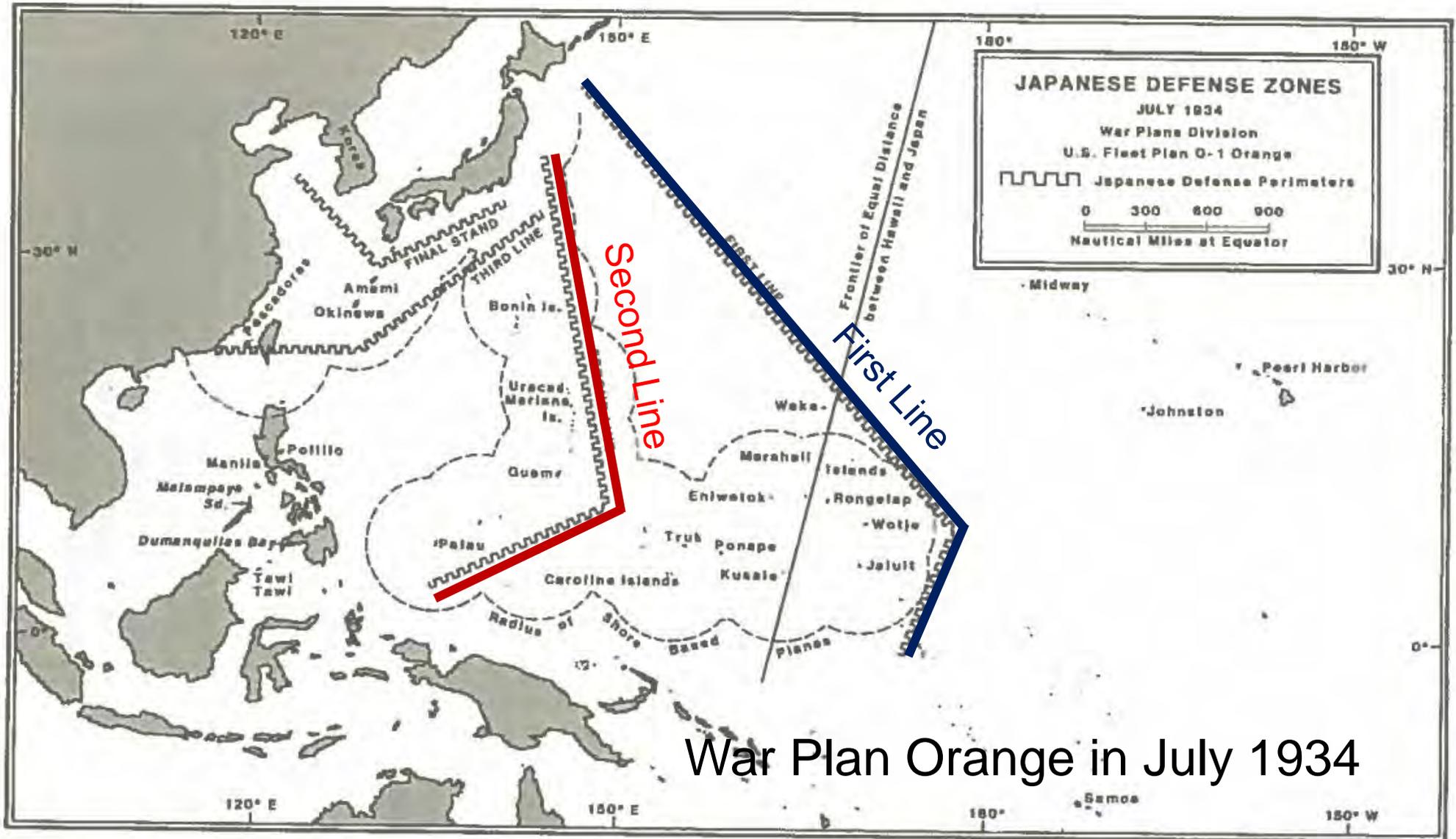
1942年5月以降  
の国防圏

1943年9月以降の  
絶対的国防圏

前半期 (1941~42)  
1941年12月日本の勢力範囲  
1941年12月連合軍の攻撃  
日本軍の攻撃された地域  
日本軍の攻撃された地域  
日本軍の攻撃された地域  
日本軍の攻撃された地域  
1942年夏に日本軍の攻撃  
日本軍の攻撃された地域

戦争後半期 (1943~45)  
 連合軍の反攻進入路  
 連合軍の空襲  
 連合軍の攻撃基地  
 戦争末期連合軍の攻撃  
 戦争末期、中国・ソ連の反攻  
 X 主要な戦い (Xは日本軍の敗北を示す)  
 ! 重要な戦い  
 1945年8月15日  
 日本軍の降参 (終戦)  
 連合軍の占領された地域  
 日本軍の占領された地域

# 米オレンジ計画が予想した日本の国防圏



War Plan Orange in July 1934

# 日本海軍基地 (1941年)

1943年9月以降の  
絶対的国防圏

1942年5月以降  
の国防圏

太平洋の島嶼：  
対米作戦の偵察、  
出撃拠点としての  
高い軍事的価値

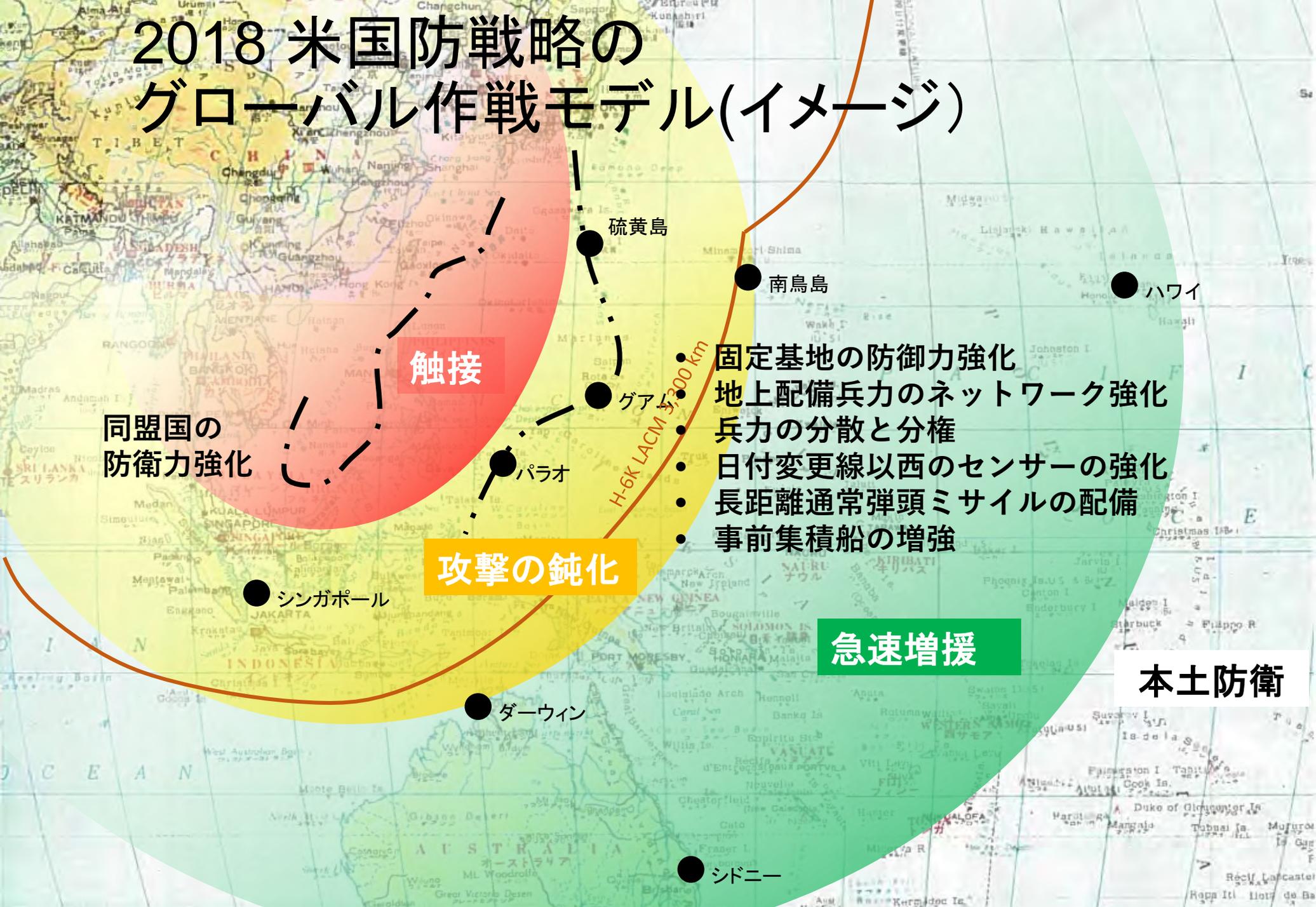
- 艦隊司令部
- 大規模基地
- 小規模基地

連合国の  
進出方向

# 2018米国防戦略のグローバル作戦モデル

層 Layer	内 容
触接 Contact Layer	<ul style="list-style-type: none"><li>• 同盟国と協調して グレーゾーン活動</li><li>• 同盟国の防衛力増強、情報収集、サラミスライス活動への対応</li><li>• 上記によって、中露が優越する状況あるいは奇襲を防止</li></ul>
攻撃の鈍化 Blunt Layer	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>死活的に重要な層</b></li><li>• 米国と同盟国による軍事力の展開、活動、所要の態勢を維持し中露の軍事行動を鈍化</li><li>• 米国の効果的な対応が可能となるまで、敵の戦果を固定化する試みを遅らせ、劣化し、理想的には拒否</li><li>• 具体的な手段は、長距離打撃、前方展開、前方戦闘</li></ul>
急速増援 Surge Layer	<ul style="list-style-type: none"><li>• 中露の侵略を撃退し、我に望む条件で紛争を終結させるために、攻撃鈍化層Blunt Layerによって作られた作戦的・政治的影響力を利用して、決定力ある来援兵力を提供</li></ul>
本土防衛 Homeland Layer	<ul style="list-style-type: none"><li>• 前方で戦闘の勝利と好ましいエスカレーション管理をすることにより、本土に対する攻撃を抑止、撃退</li></ul>

# 2018 米国防戦略の グローバル作戦モデル(イメージ)



同盟国の  
防衛力強化

触接

攻撃の鈍化

急速増援

本土防衛

硫黄島

南鳥島

ハワイ

グアム

パラオ

シンガポール

ダーウィン

シドニー

H-6K LACM 3,000 km

- 固定基地の防御力強化
- 地上配備兵力のネットワーク強化
- 兵力の分散と分権
- 日付変更線以西のセンサーの強化
- 長距離通常弾頭ミサイルの配備
- 事前集積船の増強

# 島嶼防衛作戦の推移 (イメージ)

島嶼防衛  
作戦初期

島嶼奪回戦

硫黄島  
南鳥島  
ガアム  
パラオ

硫黄島  
南鳥島  
ガアム  
パラオ

彼我の攻防線

彼我の攻防線

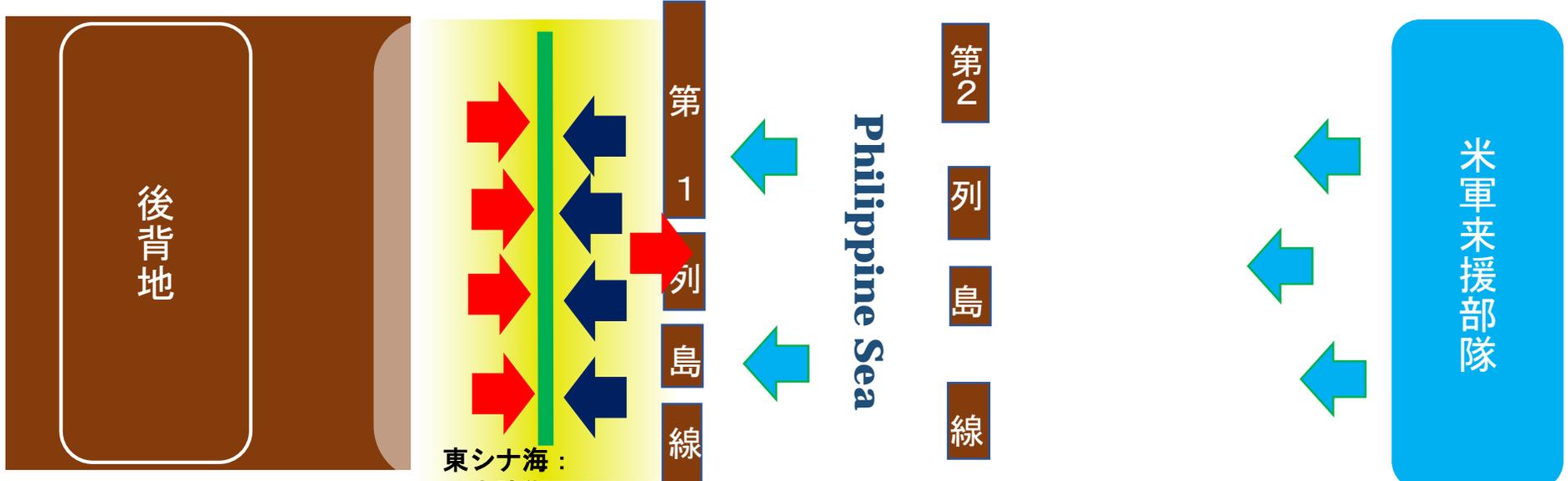
H-6K LACM 3,300 km

H-6K LACM 3,300 km



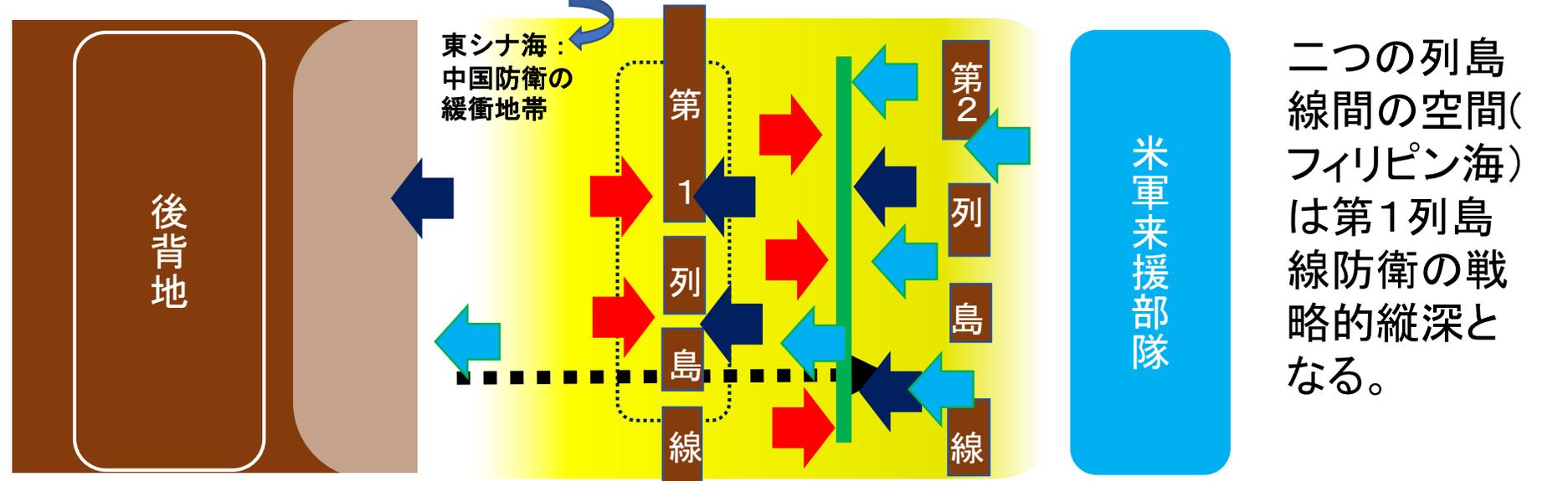
# 主たる作戦空間の移動（イメージ）

作戦初期



東シナ海：  
日本防衛の  
緩衝地帯

島嶼奪回戦

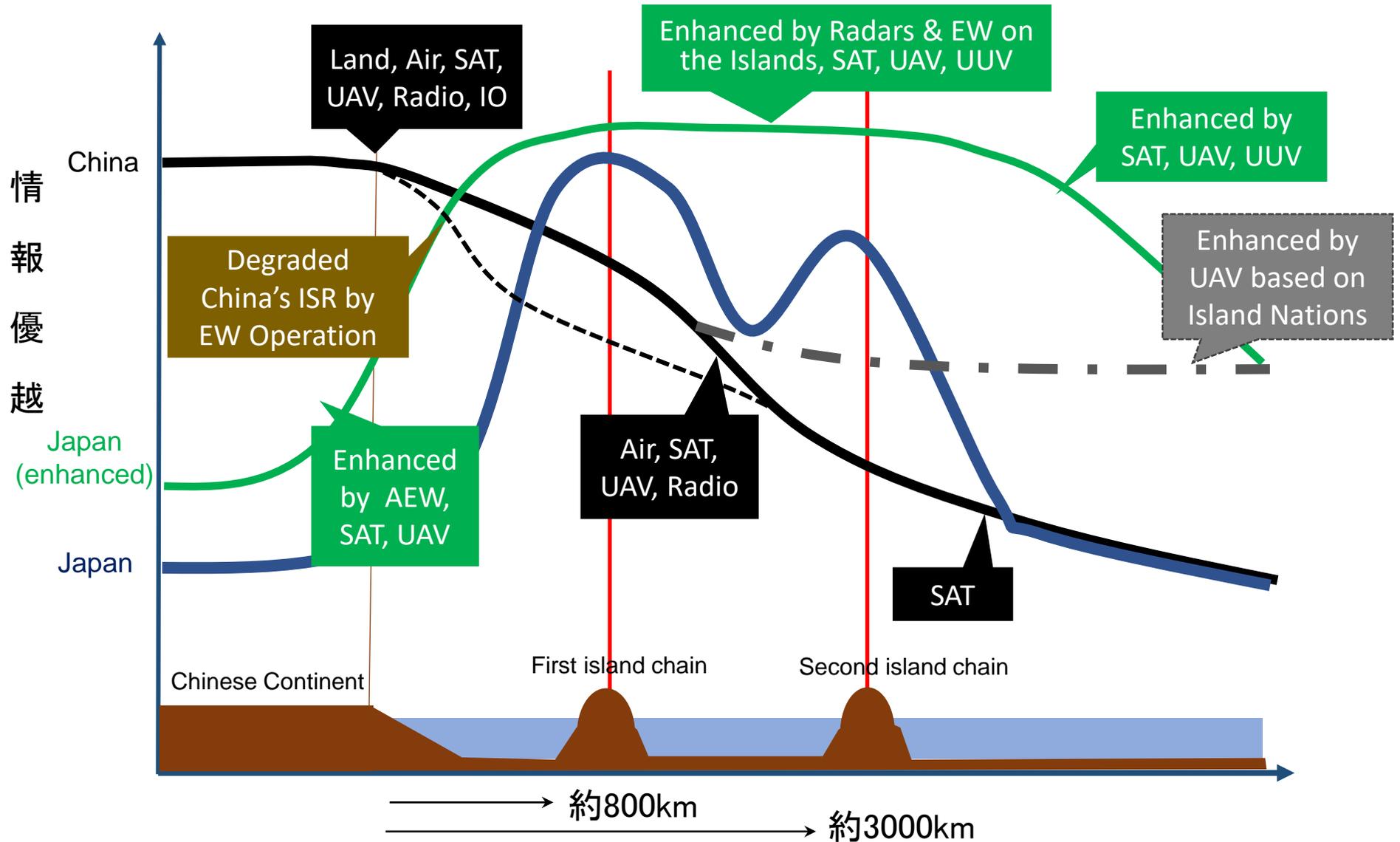


東シナ海：  
中国防衛の  
緩衝地帯

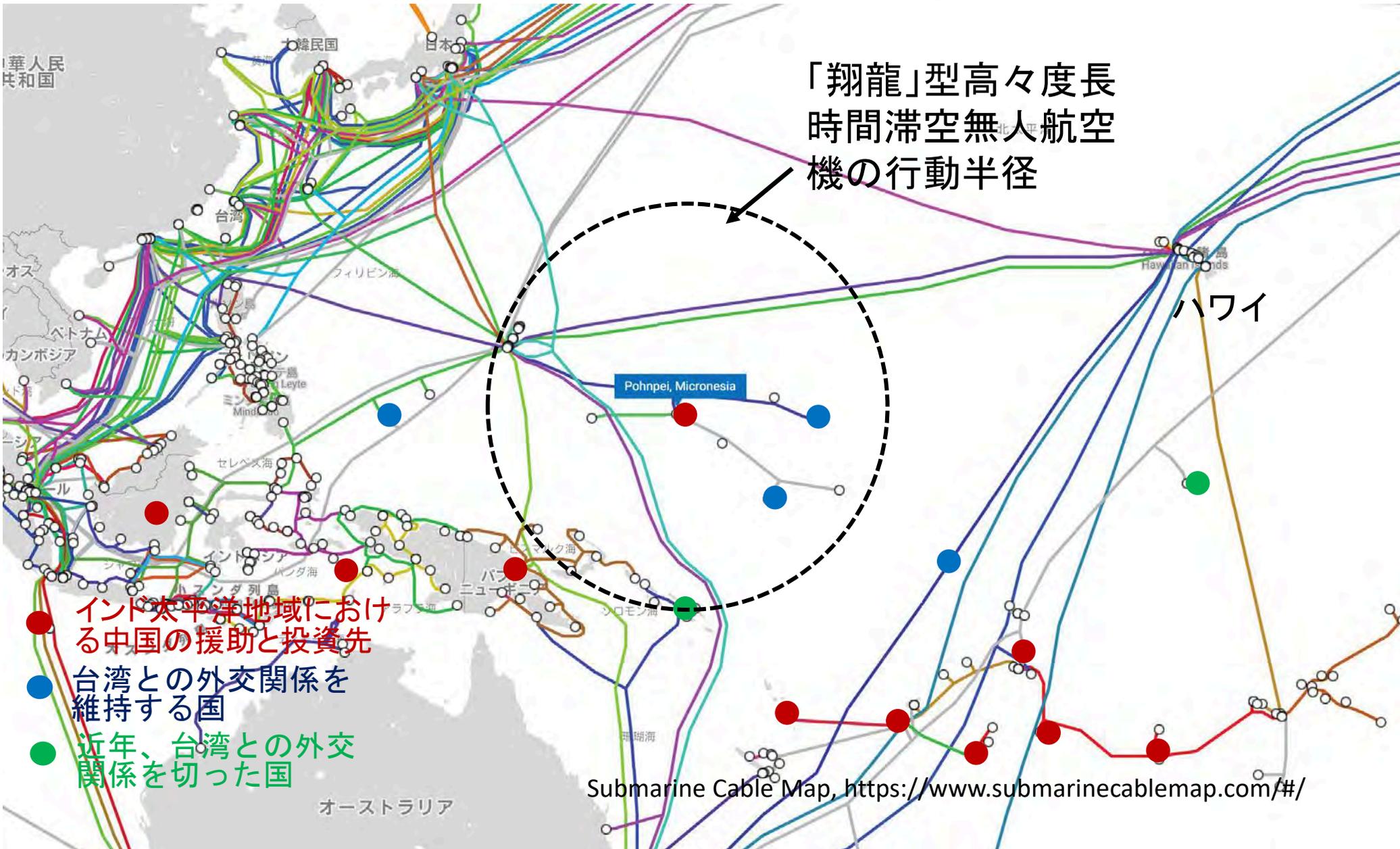
米軍来援部隊

二つの列島線間の空間(フィリピン海)は第1列島線防衛の戦略的縦深となる。

# 抑止力としての列島線間の情報優越 (ISR)



# 海底ケーブル上陸国と中国の投資先



「翔龍」型高々度長時間滞空無人航空機の行動半径

ハワイ

Pohnpei, Micronesia

- インド太平洋地域における中国の援助と投資先
- 台湾との外交関係を維持する国
- 近年、台湾との外交関係を切った国

# 情報優越による2つの列島線間の領域支配

## 1. 第1列島線が彼我の戦略目的

✓作戦目的として海空領域の支配

- 東シナ海、南シナ海、南西諸島、海上交通路の chokeポイント

## 2. 島嶼防衛作戦は「時間」との戦い

✓南西諸島における強靱な常備防衛力と迅速な増援能力

✓米軍の前方展開部隊を強化して対応時間を短縮（PDIへの協力）

✓情報優越による時間的な非対称能力の獲得

## 3. A2/AD環境下での作戦は情報優越が決定的に影響

✓キル・チェーン（搜索～探知・識別～攻撃）の短縮化競争

✓フィリピン海、日付変更線以西の全領域での情報優越

✓海洋国が協力しAIを活用した情報収集、分析、活用態勢の整備

## 4. そのためには常時持続的な海洋状況把握が不可欠

✓衛星 constellation、UAV、UUV、EW、EMW、地上配備レーダー